



1 調査概要

遺 跡 名 陸奥国分寺跡

調査原因 国庫補助による遺構確認調査

調査主体 仙台市教育委員会（担当：文化財課）

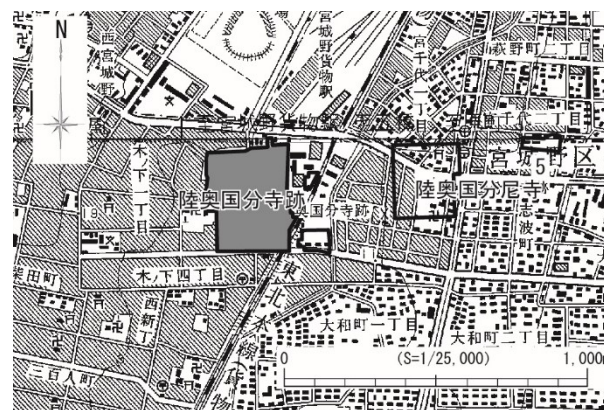
所 在 地 仙台市若林区木ノ下 3 丁目

調査面積 東区：約 147.5 m² 西区：約 30 m²

調査期間 令和 6 年 5 月～7 月

2 陸奥国分寺跡とは

陸奥国分寺跡は天平 13（741）年、聖武天皇の勅命によって鎮護国家のため全国 60 余国に建立された寺院のひとつで、大正 11（1922）年に国史跡に指定されました。貞観 11（869）年の地震によって被害を受け、大規模な改修が行われたことがわかっています。慶長 12（1607）年に伊達政宗によって再興され、現在の薬師堂や仁王門が建てられました。また、東に約 500 m離れたところには陸奥国分尼寺が建立されました。



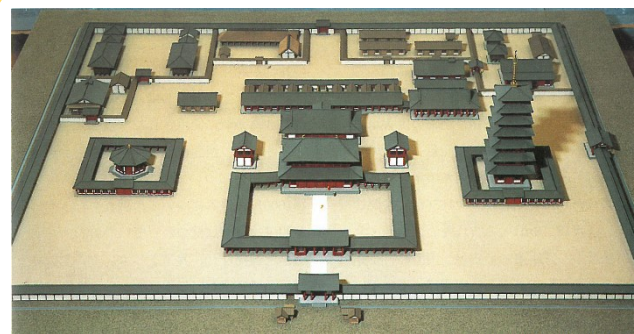
① 陸奥国分寺跡と周辺の遺跡

3 これまでの発掘調査

陸奥国分寺跡の発掘調査は、昭和 30～34（1955～1959）年に寺院を構成する建物（伽藍）配置究明のため学術調査が実施され、昭和 47（1972）年以降は仙台市教育委員会による調査が行われています。

これらの調査により南大門、中門、金堂、講堂、僧房が南北一直線に並び、中門と金堂は廻廊でつながれていることが明らかとなりました。その一方で、北側の奈良時代の様子については不明な部分が多く、特に寺院の大きさが不確定であり、その規模の確認が大きな課題となっていました。

そのため、令和 3（2020）年から寺院北辺の確認を目的とした発掘調査を実施しています。



② 陸奥国分寺跡の復元模型
（仙台市史編さん委員会 1995 『仙台市史』
特別編 2 考古資料より転載）

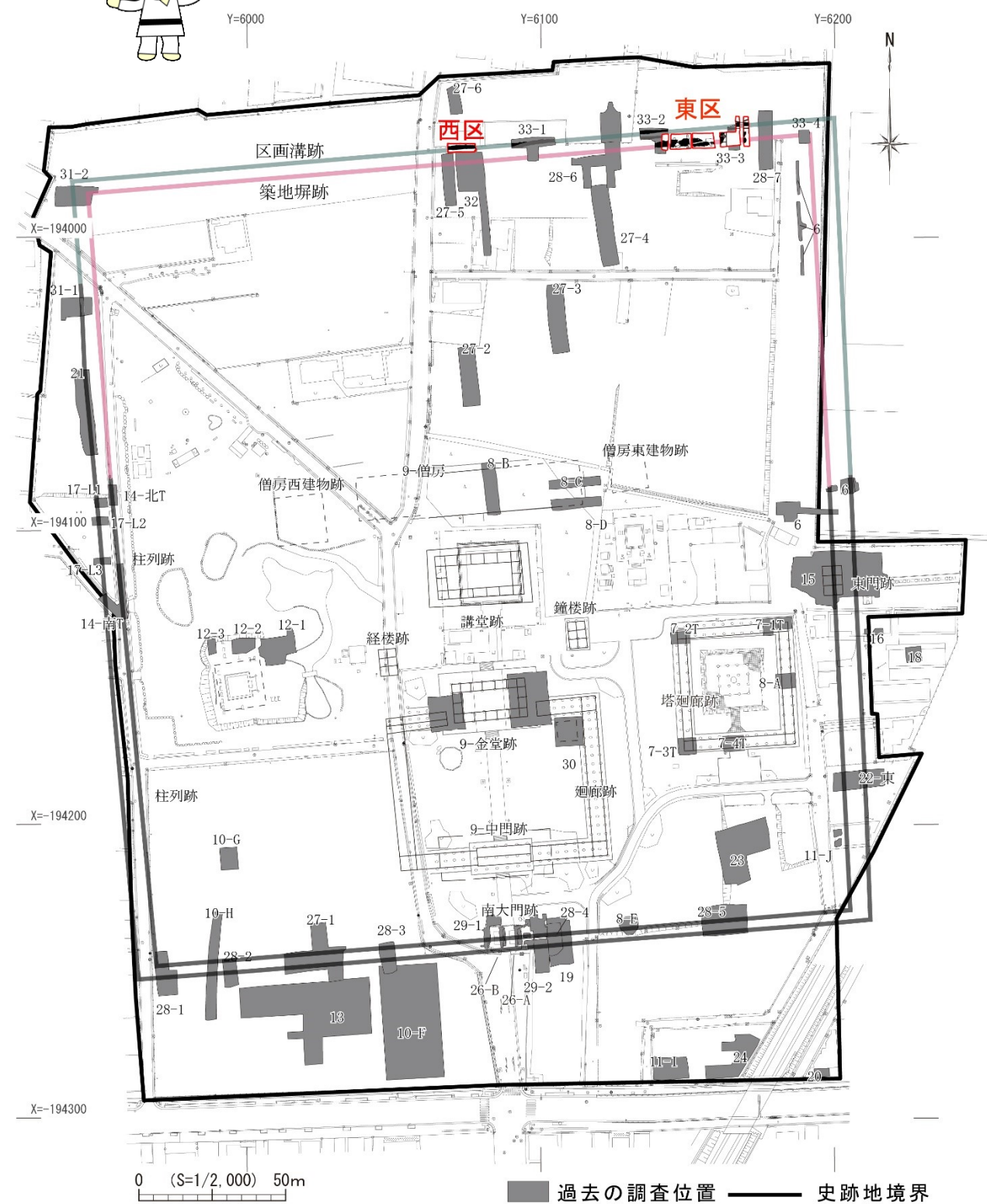
・お寺の建物

陸奥国分寺の主要な建物としては、門、金堂（仏像を安置した建物）、講堂（僧侶が読経や教義を学ぶ建物）、僧房（僧侶が日常生活を送った建物）、七重塔、経楼（経典を保管する建物）、鐘楼（鐘を突くお堂）などがあったと考えられています。また東西南北の四方は築地塀と溝によって区画されていました。



色線の部分が今回の調査で明らかに

資料 3-1



③ 調査区位置図

・奈良時代のものさし

国分寺が造られた奈良時代では長さをはかる単位として「尺」がありました。「小尺」と「大尺」の 2 種類があり、1 尺あたりの長さは小尺＝約 29.6 cm、大尺＝約 35.5 cm です。

陸奥国分寺の大きさが東西約 240m、南北約 270m であることから、小尺を基準に造られたと考えられます。

4 今回の調査成果

昨年度の調査で検出した築地塀跡^{ついでいあと}の掘り込み^{じぎよう}地業をより平面的に検出し、寺院の北辺となる築地塀跡の存在を明らかにすることを目的として発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、後世の耕作（Ⅱ層）や住宅地化（Ⅰ層）により、削平^{さくへい}されている箇所はありましたが、28.6m 分の築地塀跡を検出しました（⑤）。



④ 調査区全体の様子（南西から）

○築地塀跡

今回の調査で検出されたのは「掘り込み地業」の部分で、掘り込み地業には精緻^{せいち}に土が薄く敷かれている箇所（A）と同種の土が厚く敷かれている箇所（B）がありました。それらの深さも地点により異なり、現地表より 30 cm から 90 cm までと一定していませんでした。

築地塀の高さについては、今回の調査で明らかにできませんでしたが、一般的には 2～3m はあると考えられています。

○溝跡

西区と東区の一部で溝跡を検出しました（⑤）。この溝跡は築地塀跡と平行し、屈曲^{くつきよく}することなく続いていることから、築地塀とセットの区画溝であったと考えられます。

5 まとめ

今回発見された築地塀跡（掘り込み地業）と区画溝跡により、これまで不明であった陸奥国分寺跡の北辺が明らかとなりました。これにより寺院の規模は東西約 240m（800 尺）、南北約 270m（900 尺）となり、極めて整った形の寺院であることが明らかとなりました。

今後の課題としては、北門の存在や築地塀の高さ、伽藍を除いた寺院の内部構造などが明らかになっていないことが挙げられます。これらの不明な点を解明するため、発掘調査を継続していく必要があります。



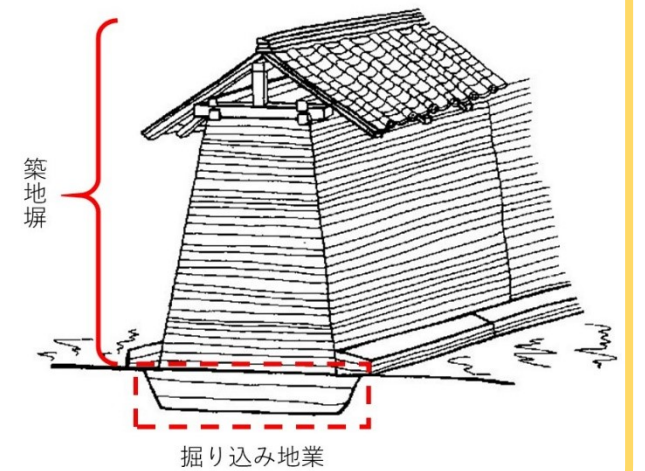
⑤ 東区一調査区の写真（上が北）

・築地塀とは

築地塀はいわゆる屋根を設けた土塀のことで、壁は層状に土を積み上げ、叩き締めることでミルフィーユ状の断面になります（右図）。寺院などの格式の高い建物の威厳を示すための施設と言われています。

・掘り込み地業とは

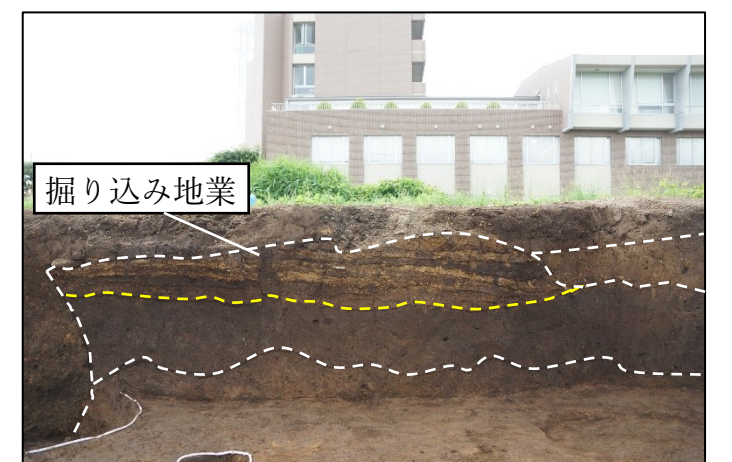
築地塀が屋根などの荷重によって沈まないよう施された地盤改良工事のことです。築地塀の地下を掘り込み、敷いた土を叩き締めることを何度も繰り返すことで地盤の強化をはかりました。



築地塀と掘り込み地業の断面模式図



⑥ 東4区 掘り込み地業平面



⑦ 東2区 掘り込み地業断面